

よさこい祭りが変わります。

今年で 70 回を迎えるよさこい祭りは、4 日間にわたり、開催されます。8 月 9 日は前夜祭、8 月 10 日、11 日は本番、8 月 12 日は全国大会、後夜祭です。今回は、昨年までのよさこい祭りとは変わった 4 つのことを紹介します。以下、NHK 高知放送局の記事を引用します。

【1】“特別観覧エリア”が新設 日よけも

70 回を記念して、追手筋本部競演場に設けられる栈敷席の一部に「特別観覧エリア」が初めて設けられます。「特別観覧エリア」は厳しい日ざしをさけるパラソルや扇風機があるグループ席で、車いすやベビーカーも利用しやすいようにバリアフリー設計になるということです。この「特別観覧エリア」は、1 グループあたり 3 万円で販売されています。また、来月 9 日の前夜祭と 12 日の後夜祭についても、多くの人が見られるよう、有料の観覧席が初めて設けられることになりました。

【2】「よさこい大賞」すべての競演場が対象に

これまで最優秀賞の「よさこい大賞」は、追手筋本部競演場での演舞だけが対象となっていました。各チームにより多くの会場を回ってもらおうと、今回からすべての競演場での演舞が審査の対象となります。追手筋本部競演場の抽選に漏れてしまったチームにも「よさこい大賞」を受賞できる可能性が広がることとなります。

【3】郊外の高知大学朝倉キャンパスに新演舞場

ことしの「よさこい祭り」は高知市中心部だけではありません。郊外にある高知大学の朝倉キャンパスに新たに演舞場が設けられることになりました。ここでは大学や地域ゆかりの 20 チームが演舞する予定です。大学は、暑さ対策のためのミストの噴射装置などを設置しようとクラウドファンディングで 400 万円の寄付を募っています。

【4】海外で活動するチームが初参加！

さらに、ことしはフランスとベトナムのチームが初めて参加します。ふだんから海外で活動しているチームが丸ごと本場・高知の本祭に参加するのは初めてのことで、高知県も全面的にバックアップして受け入れ準備を進めています。

よさこい祭りも、現代のニーズに合わせて変化を続けています。4年ぶりによさこい祭りが通常開催されることで、高知の経済が活性化されると期待できます。期間中は、飲食店やホテル、美容室が賑わいます。一時期、コロナで業績が落ち込んだ業界も、回復の兆しが見えてきました。

当社も、不動産売買を通して、高知の経済の活性化に貢献できるよう、務めて参ります。あなぶき不動産流通では、不動産の売買仲介に加え、買取も検討いたします。心のこもったご提案をさせていただきますので、不動産に関するお悩みはあなぶき不動産流通にお任せください。

—— 引用 ——

「【まとめ】高知・よさこい祭りまで1か月 ことしはどう変わる？70回記念で新たな取り組み続々！」 NHK 高知放送局(2023年7月29日最終閲覧)

